



これからも「安全」「健全」な経営に努めます

自己資本比率も国際統一基準8%を大きくクリア

自己資本比率 (連結)

自己資本比率は、銀行の安全性、健全性を図る指標のひとつです。しがぎんのように海外に営業拠点を持つ銀行は、国際統一基準の8%以上でなければなりません。

しがぎんの自己資本比率は14.04% (平成24年3月末、連結ベース)と国際統一基準を大きくクリアしています。

連結自己資本比率



用語説明

自己資本比率

銀行の安全性、健全性を判断する基準のひとつに、自己資本比率があります。銀行の自己資本が、予想外の損失に対する備えとして十分であるかどうかを示す指標です。海外に営業拠点を持つ銀行は、国際統一基準行として8%以上の自己資本比率を求められています。

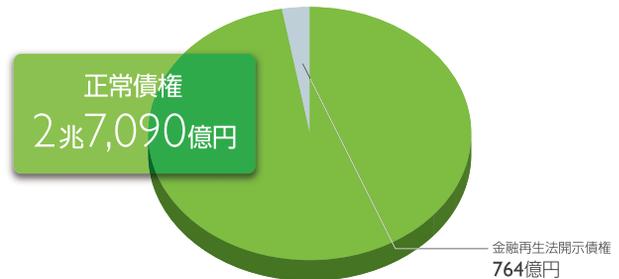
国際統一基準による自己資本比率

Tier I 資本金・資本剰余金・利益剰余金などの基本的項目	+	Tier II 有価証券含み益の45%相当額など補完的項目	$\times 100 \geq 8.0\%$
リスクアセット リスクの度合いに応じて調整した総資産の金額			

引き続き、厳正な不良債権処理を実施しました

不良債権の状況

しがぎんの金融再生法に基づく開示債権の合計は764億円、総与信に占める不良債権比率は2.74%となりました。また、貸倒引当金や担保などによる保全率は78.44%です。



金融再生法開示債権



用語説明

不良債権比率

貸出金等の総与信残高に占める不良債権の割合です。不良債権比率が低いほど、資産の質は高くなります。銀行ごとにその資産総額の規模が異なることから、この比率が銀行の健全性をみる指標の一つになります。



お知らせします、しがぎん の業績

業績ハイライト

- 資金利益や債券関係損益が減少したことにより、生命保険などの販売手数料が増加したものの、業務粗利益は前期比22億円の減益となりました。

- 一方で、人件費を中心とする経費の削減や、与信コストの大幅な減少、株式関係損益の改善により経常利益は前期比70億円増益の158億円、当期純利益も35億円増益の73億円となりました。

業務粗利益

銀行本来の業務（貸出業務、為替業務、有価証券運用など）から得た利益です。

単位：億円



経常利益

業務純益から株式の売却損益や不良債権処理に関わる費用などをプラス・マイナスした利益です。

単位：億円



業務純益

一般企業でいう営業利益にあたります。
業務純益=業務粗利益-経費（人件費、物件費等）-一般貸倒引当金繰入額

単位：億円



当期純利益

経常利益から法人税や事業税等を差し引いた最終的な当期の利益です。

単位：億円

